

2030~2035

SA-1

県内の過疎地域では、ドローンやロボットを活用した生活支援が当たり前になり、そのノウハウを生かして災害に対しても、スムーズな遠隔支援が実施される

概要

鳥取県内の過疎地域では、住民の買物支援や住居インフラのメンテナンスの為にドローン輸送やロボット作業が導入され、県内他地域からの遠隔支援が日常化していく。その結果、鳥取県内では独自に、遠隔作業支援のノウハウが蓄積していき、日本全体で災害が発生していく中で、他県での災害に対し、蓄積されたノウハウを基に遠隔作業での支援を鳥取県がリードしていく。

また、鳥取県内における災害に対しても、遠隔作業による支援の受け入れ体制が整っていることで、県内他地域のみならず、他県からもスムーズに支援を受入れることができ、迅速な災害復旧が実現する。

変化のポイント(商品・サービス/価値観・行動/業界/などの変化)

いままでは

リアルな現場での人力での災害支援のみ



これからは

県内での遠隔作業が日常化し、災害時は県内外が相互に遠隔作業支援する体制ができる